

今年もあっという間に師走、
教職員の皆さんは文字通り忙しく走り回っていることと思いますが
日本語能力試験を終えた留学生の皆さんは早くもクリスマス気分かも知れませんね。

◆ 30回記念「日本語弁論大会」は大阪で開催

全国日本語教育協会主催の「日本語学習外国人留学生日本語弁論大会」は、歴史を積み重ね30回目を迎えます。

この大会は 教育研究委員会からお知らせしている通り、正会員である専門学校と、連携会員である各種学校の留学生・教師の交流の促進、並びに日本語教育の充実向上を図ることを目的としています。

教育研究委員会からの「お知らせ」「参加申込書」「出場推薦書」をここにも添付しますので、参加者の有無を12月8日（金）までに

出場者の推薦を12月15日（金）までにご返事下さい。

30回という大きな節目です。奮ってご参加のほどお待ちしております。

【添付資料:教育研究委員会からのお知らせ】

<昨年度、第29回の様子>



◆ 九州地区「ミニ勉強会」の企画が進行中

全専日協が目指す「教育の質の向上」のため、毎日直接留学生と向き合い試行錯誤を重ねている教師の皆さんに役立ててもらおうと、6月30日の総会の折「日本語教育実践報告会」を企画しました。当日『こんなカンジで漢字教育』と題して2つの学校から発表してもらった様子はニュースレターの第6号でもお知らせした通りです。

参加した皆さんからのアンケートでは次のような声が寄せられました。

「アイデアを持ち帰り活かせることを検討したいと思います。」

「地方でも多くの教員の役に立つのではないかと思います。」

そこで岩本 仁副会長を中心に相談したところ、九州地区で「ミニ勉強会」を開催しようという事になりました。日程は1月27日（土）の予定で、現在テーマを検討中です。次のニュースレターで詳細をお知らせできると思いますのでご期待下さい。

◆ ゼンセン *Topics*

*前回から、会員校の皆さんの学校で起きた最新の話題を紹介するコーナーを作りました。第2回は、東京三鷹市にある「専門学校アジア・アフリカ語学院」院長代行 木村実季先生 から情報をいただきました。

「専門学校アジア・アフリカ語学院」は、1961年創立で、「アジアの橋になる腕を組もう」を合言葉に、語学の他に幅広く一般教養の時間を設けていることでも知られています。その一環で今回のような地域連携も行われています。

1月25日（土）、三鷹市芸術文化センター「星のホール」にて第64回三鷹市市民文化祭が行われました。アジア・アフリカ語学院の留学生は、毎年、吟詠剣詩舞大会の茶道吟の部に参加させていただいております。地域の中学生、大学生とともに、本学院からは13名が舞台上がりました。初めての着物と茶道体験に、少し緊張しながらも、貴重な体験をすることができました。また、当日は、清原慶子三鷹市長もお見えになり、一緒に写真をとらせていただきました。



※茶道吟とは詩吟を吟じている間にお手前をするものだそうです。留学生の皆さん、着物が大変お似合いです。

*今後も会員の皆さんから旬の話題がありましたらお知らせ下さい。

お待ちしております！

2017年12月5日

全国専門学校日本語教育協会
ニュースレター担当